

2025年度 愛知産業安全衛生大会

当協会は、愛知労働局と共催により、7月4日(金)に岡谷鋼機名古屋公会堂大ホールにおいて、約1,000名の参加を得て「2025年度愛知産業安全衛生大会」を開催しました。当日は、開会式、大会宣言のほか、愛知労働局長表彰式、愛知健康安全交流会表彰式、基調講演、愛知労働局による安全劇、健康体操、事例発表や特別講演が行われました。

1 開会式・表彰式・大会宣言

(1)開会式

当協会の拝郷丈夫会長が開会の挨拶を行いました。

今年も7月1日から、全国安全週間が始まりました。最近の愛知県の労働災害状況を見ますと、死亡災害は減少している一方、休業4日以上之死傷者数は増加傾向にあります。人手不足や女性、高齢者、外国人材といった多様な労働者が増え、その職域も変化しているなど、とりまき労働諸事情の変化を踏まえ、適切な安全衛生のあり方を考えて、しっかり実践していくことが重要です。

このような中、愛知労働局では、経営トップが安全衛生を経営課題として、生産性、品質などと一体的に捉え、リスクアセスメントのプロセスを通じて、企業価値の向上に繋げていく「安全経営あいち®」を推奨しており、当協会もこの理念に大いに賛同しているところです。

本大会は、全国安全週間の一環として、県内の安全衛生の関係者が一堂に会し、「誰もが、安全に、安心して、働くことができる」職場環境づくりを考え、理解を深めることを目的に、例年開催しておりますが、本年は、愛知労働局との共催で、より地域一体となった大会とし、これまで以上に、多くの皆さまに、安全衛生に対して関心を高め、理解を深める契機にさせていただきたい、との思いから、気軽に参加できるよう、参加費をいただくことなく開催することとしました。

プログラム内容も愛知労働局及び愛知健康安全交流会からの各種表彰、愛知労働局 高橋労働基準部長様の基調講演、に続きまして、愛知労働局職員様による安全劇、製造現場で女性の活躍促進に取り組む日東電工様による事例発表、社会人軟式野球の強豪、オーモリグループ様による健康体操の実演、と、様々な視点から、皆さまの「ためになる」よう工夫を凝らした内容でご準備しております。

このほか、外国人労働者が増加していることも踏まえて、当協会が実施している「外国語による講習」についてのパネル紹介やメーカー様のご協力により、安全衛生保護具の展示など、昨年より規模を大きくして行なっております。

プログラムの最後は、特別公演、「勝者と敗者の境界線」と題して、スポーツジャーナリストの二宮清純様からお話をいただきます。

最後に、本日、ご参集の皆さまは、日頃から熱心に、安全衛生活動に取り組んでおられること、そのご努力に改めて、心から敬意を表し、そして、今後も愛知労働局及び当協会の取組に、一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

次に、愛知労働局長の小林洋子 氏のご挨拶いたしました。

愛知労働局長の小林です。

愛知県における令和6年の労働災害の発生状況は死亡災害34人(令和5年35人 2.9%減少)、死亡・休業4日以上之死傷災害8,147人(令和5年7,817人、4.2%増加)となり、死傷年千人率も1.948と増加しています。愛知労働局策定の「第14次労働災害防止推進計画」の目標である「2027年までの早期に死亡災害について年間25人を下回りさらなる減少を目指す。死傷災害については、死傷年千人率を2022年(1.928)と比較して2027年までに減少に転ずる。」に対し、死亡災害では前年より減少したものの目標には及ばず、死傷災害についても目標達成に向けて更なる取組が必要な状況にあります。

このため、愛知労働局では同推進計画において働く方々が、安全と安心、やりがいや生きがいをこれまで以上にもてること、そして、経営トップの方には、安全衛生を単なる現場レベルの取組としてではなく、企業価値を高めるための戦略として捉えていただくことを目指しております。



リスクアセスメントでは、現場の実態を詳しく調査し、どのような危なさがあるかを整理し、一方で生産性や品質の向上といった経営課題に対しても、同じように現場の実態を調査することから始まり、これらの調査プロセスは共通なので、これらを一体化することで、安全性とその他の経営課題の改善を同時に進めることが可能であると考えます。「安全」と生産性や経済性は必ずしもトレードオフの関係ではなく、むしろそれらを統合して一体的に行うことが、経営全体の最適化に繋がると考えています。

この理念をより多くの事業者の皆様にご理解いただくため、異業種交流会等を開催するとともに「安全経営あいち賛同事業場制度」の運用をさらに進めていきます。

さて、昨年、愛知県内では熱中症による死傷災害が88人(死亡者数0人)発生し、対前年比28人増加しています。本格的な夏場を間近に控え、熱中症の増加が危惧されるところ、「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン」を5月から展開しており、7月を重点取組期間として、暑さ指数に応じたこまめな休憩や水分補給などの管理対策を進めています。

本日、この後、表彰式で厚生労働大臣表彰の披露、愛知労働局長表彰の授与をさせていただきます。受賞者皆様の不断の努力が他の事業場の模範につながり、愛知県内の事業場の安全衛生水準の向上発展に貢献いただいていることに心より敬意を表します。

最後に、今後も愛知労働局の取組に一層のご理解・ご協力を賜りますことと、皆様の事業場における安全衛生管理の向上、本日も参集の皆様方の益々の御健勝とご活躍を心より祈念いたします。

(2) 表彰式 <愛知労働局>

愛知労働局により、安全衛生に係る優良事業場等の表彰式が行われました。

<厚生労働大臣賞>

まず、厚生労働大臣奨励賞(安全衛生に関する水準が優秀で他の模範であると認められる事業場又は企業)は、トヨタ自動車株式会社 飛島物流センターです。本表彰式にて、代理で愛知労働局長から表彰状が授与されました。

<愛知労働局長賞>

次に、愛知労働局長優良賞受賞(地域の中で、安全衛生に関する水準が特に良好で他の模範であると認められる事業場又は企業)は、株式会社 FTS 本社・本社工場が受賞しました。

また、同奨励賞(地域の中で、安全衛生に関する水準が良好で改善のための取組が他の模範と認められる事業場又は企業)は、共立マテリアル株式会社、社会福祉法人西春日井福祉会、株式会社ジェイテクトグライディングツール、日本軽金属株式会社 名古屋工場、株式会社服部商会、株式会社ジェイテクトギヤシステム 瀬戸工場、ヤマザキマザック株式会社 本社・大口製作所が受賞しました。

同じく、同功績賞(地域の中で、地域、団体又は関係事業場における安全衛生活動において指導的立場にあり、当該地域、団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をした個人)は、加藤宗博 氏(きっこファミリークリニック 院長)が受賞しました。

同じく、同安全衛生推進賞(地域の中で、長年にわたり安全衛生関係の業務に従事し、地域、団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をした個人)は、竹内宏 氏(豊田安全衛生マネジメント株式会社 前代表取締役社長)が受賞しました。



(3) 表彰式 <愛知健康安全交流会>

愛知健康安全交流会の活性化の一環として、会員事業場の中から、安全健康活動に顕著で他の模範となる事業場および個人を表彰し、会員事業場の安全健康水準の向上と発展に寄与することを目的としています。

次の方々が、受賞しました。

優良賞(事業場)

日本車輛製造株式会社 豊川製作所

功労賞(個人)

中尾 賢一

(フタバ産業株式会社 総務・人事本部長)



(4) 大会宣言

伊村 隆博(当協会副会長)が以下の大会宣言(案)を朗読し、満場一致で採択されました。



2025年度愛知産業安全衛生大会 大会宣言

愛知県の2024年の労働災害は、死亡者数は34名と、前年から1名減少した。しかし、休業4日以上死傷者数は8,147名と5年連続で増加した。

労働災害は、製造業・商業で多く発生しており、死亡災害・重篤災害を含むすべての災害の根絶には、今なお我々の前には課題が残っている。

このような状況下、第14次労働災害防止推進計画が3年度目を迎えた中、死傷者数の増加に歯止めをかけ、「死亡者数25人未満」の早期達成を図りたい。

それには、現場の安全を確保しつつ、生産性向上につなげる「安全経営あいち®」の理念を広く普及させ、自律的で前向きな安全衛生管理活動を促進していくことが必要と考える。

近年は、職場においても女性、高齢者、外国人労働者など、多様な人々が共に働く時代となっている。加えて、デジタル技術の進展や、気候変動による猛暑など、職場の安全衛生に影響を与える要素も複雑化している。

このような時代において、すべての働く人が安心して力を発揮できる環境を整備することは、企業の持続可能な成長を支える基盤であると同時に、社会全体の安定と発展に直結することは、誰もが理解するところである。そのため、労使が一体となって、安全衛生活動を着実に推進していかなければならない。

本年度の全国安全週間スローガン「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」は、多様化、デジタル化が進むなかでも「すべての働く人の命と健康を守る」という安全衛生の原点を再確認するメッセージといえる。安心、安全はみんなで作るもの、一人ひとりが「自分ごと」として安全と健康を考え、互いに支え合いながら、安全文化を育てていくことが重要である。

本大会を契機に、労使が心を一つにし、「安全・健康・安心」の職場づくりを推進することを誓い、2025年度愛知産業安全衛生大会参加者の総意により、ここに宣言する。

2025年7月4日

2025年度愛知産業安全衛生大会

2 基調講演

愛知労働局労働基準部長の高橋嘉寿満 氏より、「労働安全衛生行政の動向について」と題して、講演をいただきました。

最初に、労働災害の発生状況等として、死傷災害、つまり死亡災害と休業4日以上の災害の合計は、残念ながら増加傾向にあり、令和6年8,147人で平成27年と比較して約3割の増加となっています。死亡災害については、減少傾向にありますが、令和6年では34人の尊い命が失われています。このように、令和6年の結果を見ますと、死傷災害は過去10年で最多、死亡災害は過去、10年で2番目に少ない結果となり、このような結果となった理由のひとつは、管内各事業場の皆さまがリスクアセスメントに取り組み、死亡などの重篤災害を優先して防止いただいた成果であると理解しており今後、更なるリスク管理の普及が必要とされる場所です。

業務上疾病の発生状況については、令和6年の新型コロナウイルス感染症を除いた業務上疾病の発生件数の総数は532件であり、昨年と比較すると、85件も急増し、過去最大の発生件数となっています。過去からの流れを見ますと、業務上疾病件数が最も少なかった平成27年の305件以降、増減を繰り返しつつではあるものの、中長期的には増加基調が見られており、9年間で75%弱も増加している状況となっています。

このうち、災害性腰痛と熱中症で約75%を占めており、これらの対策が望まれます。災害性腰痛は、転倒、転落等による腰のけがや、腰に負担の掛かる突発的な力が必要となる作業によって、腰痛を発症させたもの等でありますが、一人作業で腰を



曲げる作業を控える等、あらかじめ作業計画や作業方法等で、事業場で検討をしていただくことも重要で、リスクアセスメント等を通じて、作業内容の確認を行い、必要に応じて作業方法等を変更していただくこと等、労働局としても災害性腰痛防止について、周知を行っていきます。

熱中症については、令和6年は、酷暑の影響により、88件も発生し、過去最大の発生件数となっています。労働局においては、今年も5月から「熱中症クールワークキャンペーン」を実施期間に併せて、熱中症対策の集中的な取り組みをしているところ、5月には、本格的な暑さを迎える前に「労働局長による熱中症予防パトロール」を実施しています。熱中症発生件数は、3年連続で増加傾向にありますが、令和3年以降は、熱中症による死亡災害は発生しておりません。新たな熱中症対策義務化への省令改正に基づき、対策の適正化に向けた取組をお願いいたします。

次に、令和5年度より令和9年度までの5年間に期間とした、愛知労働局版第14次労働災害防止推進計画については、重篤な労働災害の防止、第三次産業対策、総合的な健康対策が柱となり、重篤な労働災害の防止については、リスクアセスメントの普及促進、製造業のはさまれ・巻き込まれ災害防止等及び建設業の墜落・転落災害防止としています。これらのアウトプット指標は、「安全経営あいち賛同事業場」2000事業場以上とし、アウトカム指標は、「死亡災害 早期に25人を下回る/死亡災害 増加傾向に歯止めをかけ、死傷年千人率を減少に転ずる。」としています。

ここで、あらためて「安全経営あいち®」について少し触れさせていただきますが、リスクアセスメントは、事業に伴って発生する作業にどのような危なさがあるかを整理していくもので、それを進めていく過程で、作業者の行っている作業、現場の実態を調査していく必要があります。一方で、品質を改善したい、働き方を見直したいといった経営課題に対応しようと思ったときも、同じように現場の実態を調査することから始まることから、これらの調査プロセスを一体にさせる可能で、さらには、それらの経営課題を同時に向上させることも可能とも考えており、「安全」は生産性や経済性と必ずしもトレードオフの関係にはないということです。ともに向上していくのではないかというのが、「安全経営あいち®」の理念です。

リスクアセスメントの普及促進を図るため、愛知労働局では出前講座を実施し、また、安全経営あいち賛同事業場制度を推進しています。労働災害を減らすには、如何に自主的な安全衛生管理活動を行うか、言い換えれば「安全経営あいち®」の理念に賛同していただける機事業場を増やしていくか大きな課題と考えており、「安全経営あいち®」の「拡張・深化・定着」を掲げ、さらなる取組を行っていきます。

次に、愛知労働局が取り組んでいる異業種交流について、説明します。異業種交流は、例えばものを運ぶに関しても、製造業、社会福祉施設など業種、業態で達成の仕方や考え方が異なりますので、業種を越えて、広く改善事例から新たな気づきを得て、新しいアイデアにつなげていくことを異業種交流を通じて、事例紹介するなどして、取り組んでいきます。

最後に、愛知労働局では、皆様の協力をいただきながら、各種イベントを行い、「安全経営あいち®」の理念の普及に邁進しています。安全衛生行政のスタッフも、会社での安全衛生スタッフの皆さまも、ともに労働災害を少しでも減らしたいという同じ志を持った仲間ですので、官民の垣根を越えて、情報交換をし、共にワンチームで歩いていけたらと思います。

3 労働劇

あいち安全経営本舗(愛知労働局 安全衛生担当職員)により、「人材に頼らない仕組み作り～在庫はどこ? 管理は誰?～」と題して、異業種交流安全劇が行われました。

整理整頓がされて商業施設のバックヤードを例に顧客サービスの観点から損失が生じていることを問題提起し、作業把握から整理整頓、標準化により、多様な人材活用へ改善を進め、安全、生産性、品質等が一体であることの考え方(=「安全経営あいち®」)が分かりやすく演じられました。



4 健康体操の紹介

オーモリグループ 株式会社EVANESS「カロリートレードジャパン」のトレーナー宮坂和杜氏により、「いきいき健康体操」と題して、職場で簡単に取り組める腰痛や肩こり予防に効果的なストレッチや軽運動をご紹介しました。実演は大森石油株式会社 軟式野球部員の方々のご協力を得て、職場の限られたスペースでも取り組み、日々の業務の合間に無理なくできる健康づくりのヒントが紹介されました。



5 事例発表

日東電工株式会社 基盤機能材料事業部門管理統括本部 人事総務部教育課長 野中亜紀子により、「女性も輝く製造業～いきいきラインの立ち上げ～」と題して、事例発表がありました。

豊橋事業所では、多様な人材が生き活きとやりがいをもって働く環境を目指す中、化学系の中でも工業用の素材メーカーである当事業所は女性比率が低いことから、製造ラインを検討し、意識改革には最も古い工場を対象に「いきいきライン」を立ち上げることにしました。立ち上げ準備では、環境にやさしい粘着テープを開発し、有機溶剤を使用しないことにより、作業者の負担が減り、女性も作業可能になりました。ハード面では、運搬エレベータや台車を活用し、明るくコミュニケーションが上がる仕切り構造を採用しました。ソフト面では、座学・ロールプレイのハラスメント教育や新入社員・先輩女性社員メンター双方に利するメンター制度に取り組みました。更には、配属された女性の意見を取り入れた身体への負担軽減、先輩女性のサポートや夜勤の安全対策の改善を講じ、また、意識改革のための講演会、座談会を通じ、職場環境改善提案へ結びました。

当事業場では、事業戦略とリンクした取組（環境対応品開発×多様な人材の活用）と経営理念を体現した取組を推進しています。



6 特別講演

株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役 二宮清純 氏により、「勝者と敗者の境界線 ～大谷翔平に学ぶ夢と自己実現能力と安全の重要性～」と題して、アスリートや関係者のエピソードを交えて、大変参考になるお話がありました。スポーツの現場から導き出された数々のメッセージは、私たちの「安全」と「行動」に深く繋がるものでした。